



第 2 回グローバル講演会が行われました

講演者 中部大学現代教育学部教授 ジョン・ギヤスライト先生

演題 「小さな一歩が未来を変える」

～みんなの力 無限大～

10月31日(月)の7限目に今年度の第2回グローバル講演会が行われました。4月に実施した第1回講演会は中部大学国際関係学部の和崎春日先生にご講演いただきました。今回の講演者は中部大学現代教育学部教授のジョン・ギヤスライト先生です。ジョン先生は大学で教鞭をとるだけでなく、コラムニスト・ツリークライマーなど多彩な活躍をされています。来日後間もなく中日新聞に連載された「ジョンさんの名古屋日記」はたいへんな人気コラムとなり、今ではすっかり名古屋の顔となっています。

講演の冒頭でジョン先生は「Dream Maker」と「Dream Breaker」という言葉を使い、ぜひ Dream Maker になろうと生徒に呼びかけました。そして海外に行ったことがある人はいるかと訪ねられました。また、外国に行って活躍したいという夢を実現することのかけがえのなさをご自身の経験をもとに話されました。

カナダのバンクーバー島で幼少期を過ごされた先生は、海岸に流れ着く外国からの漂流物に興味を持つ好奇心旺盛な少年だったそうです。そして日本の下駄を拾って、それが本立てであると思ひ、学校でそれを紹介して「Little Samurai」と呼ばれていたことなど、ユーモアを交えて話されました。しかしつらい経験やご苦労もあったとのことで、Dream Maker であったはずの父との別れや、周囲からいじめを受けたことなども話されました。しかし祖父の「人の夢をかなえる人になりなさい」「木に登ってみなさい」「何か面白い事をしなさい」という言葉に心を動かされ、自分でツリーハウスを作ったそうです。そして自分に冷たくしていた生徒たちをツリーハウスに招待し、高い所からの景色をともに楽しむうちに、その生徒たちともわかり合えるようになっていったとのことでした。

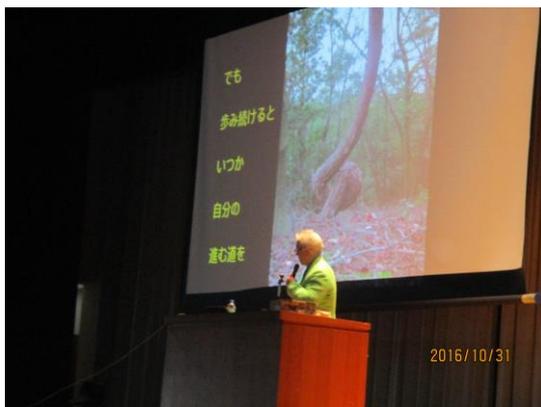


二十歳で来日したジョン先生は、南山大学で日本語を学び、家族も持たれました。本当に日本がお好きであり、納豆など和食についても喜々として話されました。その後の日本での活躍は多岐にわたりますが、特に人間と環境のつながりという視点でツリークライミングに力を入れておられます。動画を使って森の中にあるご自宅のツリーハウスを紹介されました。そして木や環境のことを専門的に学ぶために名古屋大学の大学院に入られ、ツリークライミングで人間はどう変わるのか、脳にどのような変化が生じるのかを学術的に分析されました。生物多様性を大切にすべきとの考えに立ち、木から学ぶことの大切さ、木も人間も見かけで判断できないことなどを説かれました。

こうして先生の呼びかけで始まったツリークライミングジャパンは各地に支部が設立され、今や世界的な活動となっています。この活動を通して、ジョン先生はハンディを抱えた人でもツリークライミングは可能であり、ともに登る喜びを分かち合えることや、たくさん子どもたちがツリークライミングに関心を高めていったことを話されました。

話はさらに広がり、若い高校生の力は無限大であり、春日丘の生徒の誰もがヒーローになれる可能性を持っていることを強調されました。難病を抱え、その姿を中傷されていたインドの少女が、多くの仲間を支えられ、逆に人々に夢を伝えることができたこと、足が感染症で悪くなる途上国の子どものためにシューズ会社を立ち上げた人がいること、その他斬新な発想で人々の役に立つ発明をする若者の姿を紹介されました。

SGHの目的はグローバルな視点で考え、国際社会で活躍する人になることです。そのためには、まず自分の夢を育み、人の夢を応援するという小さな一歩が大切であることを学びました。春日丘高校の生徒全員が持つ「ヒーローの心」を揺り動かす講演でした。



最後に、講演を聴いた生徒の感想をいくつか紹介します。

「砂漠の木の話を聴いて、木も人も見た目ではないことが分かりました。」

「視点を変えて物事を考えて、発見することが大切。」

「自分もドリームメーカーになれるように頑張りたいです。」

「木は人間とこんなにも密接なのだと思って驚きました。」

「人それぞれに、人を助ける可能性があることが分かりました。」

「高校生でも、人の役に立つものを作ることができることを学びました。」

「また子供のころにもどって木登りをしたくなりました。」

「夢はあきらめない。自分の限界を決めない。人のためにできることはたくさんあると思った。」

「自分が生きてきた成長の過程を話されていて、すごく夢にあふれた方だと思いました。」

「木のように、いろいろな困難にぶつかっても、成長を止めない強い人になりたい。」

「生まれた場所は選べない、だから工夫して頑張る。頑張ることが美しい。」

「人の夢を応援すると、おのずと自分の夢も見つかることを知りました。」

「木から人を見て、木から人を学ぶその在り方はすばらしいと思った。」

「生物の多様性には、人の多様性が必要だと分かりました。」